

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173700311		
法人名	医療法人社団倭会		
事業所名	グループホームねねむ A-1ユニット		
所在地	北海道伊達市竹原町28番地3		
自己評価作成日	令和3年2月11日	評価結果市町村受理日	令和3年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0173700311-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響でご家族が直接会えない状況が続いていますが、電話で近況を伝えたりお藩士をしていただいたりリモート面会を実施することで入居者様とご家族の両方に安心したような笑顔が見られるようになりました。
入居者様が自分らしく過ごしていただくために、個人のペースに合わせつつ、残存能力を生かした支援を行えるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームねねむ」は、JR伊達紋別駅から徒歩で10分ほどの静かな住宅地に立地している3ユニット27名のグループホームである。中庭を望める開放感のある玄関を中心に平屋建てと2階建てのユニットになっている。居間には大きなソファが置かれ、利用者が好きな場所でゆっくり過ごせるように配慮している。雛人形や季節の花、観葉植物などもあり家庭的で温もりのある室内になっている。職員は常に理念を意識しながら利用者一人ひとりの意向を尊重し、のびのびとした生活が送れるように統一したケアを行っている。地域交流の面では、地域行事に積極的に参加すると共に、近隣の方が自分で育てた花を持って来て花壇やプランターを整備してくれるなど、地域に根ざした事業所となっている。昨年度は新たに保育園との交流を開始し、園児が来訪して踊りを披露したり手づくりのプレゼントをもらうなど利用者とは触れ合っている。管理者や計画作成担当者は、業務の中で職員の意見や提案を聞き取りケアや運営に積極的に反映させ、働きやすい職場環境の整備に努めており、職員の定着率も高くなっている。入浴支援では入浴日や時間帯などにも細やかに対応しており、本人の意向で夕方に入浴している利用者もいる。職員の優しい対応と毎月の個人便り、家族の安心感と信頼につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や方針をスタッフルーム・リビングに掲示し、常に意識しながら行動できるようにしている	「すべての利用者の生活と心の安寧を守り、育むことによって地域社会に貢献する」という事業所独自の理念を作成し、事業所内の要所に掲示している。カンファレンスなど、ケアの方針を検討する時に意識し再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、根ねむ新聞を回覧することで施設や入居者様の様子を知っていただいている	感染症の流行前は地域や神社のお祭りで出店を楽しんでいる。近隣の方が自分で育てた花を毎年プランターや花壇に植えてくれる。保育園児が来訪して踊りを披露したり、手づくりの花のプレゼントをもらうなど新たな交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて入居者様の状況を報告し、認知症の理解につながるよう努めている。ホームページも開設しているが一部の情報は更新が止まってしまっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、外部評価の結果を報告し、後日職員にも文章にて報告される	例年は市役所職員や家族、地域代表が参加して事業所の報告を中心に、避難訓練やサービス評価報告などを行っている。今年度は感染症の流行によりほとんど開催していない。開催時は会議案内と議事録を全家族に送付している。	感染症の流行時も情報資料なども添付しながら書面開催などの実施を期待したい。また、開催時はテーマを記載した会議案内を送付し、参加できない家族の意見も事前に聞き取り会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、協力関係を築けるよう努めている	管理者は市役所に入居希望者の住所地特例について相談したり、疑問があればその都度メールやファックスで確認している。普段から情報交換しながら、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止対策会議を毎月行い、事故やヒヤリハットの処置が適切な対応か話し合っている。玄関の施錠は夜間と事務所不在時に行っている。	「禁止の対象となる具体的な行為」11項目を記載した指針を作成し、スタッフルームにも掲示している。会議の中で勉強会を行っているが、記録の整理が不十分なので身体拘束適正化委員会の議事録と共に分かりやすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣などの際に怪我や内出血がないか都度確認を行い、発見した時は原因を職員で話し合っている		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解には個人差があるため、施設で研修会を開くなどの学ぶ機会を設ける必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行いながら確認をしていただき、理解と納得を得られるよう努めている。改定時には文章でのお知らせとなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エントランスに意見箱を設置している。また面会時に要望がないか尋ね、その内容を職員で共有し、日ごろのケアにつなげている	家族の面会時や電話、「ふれあいの会」などで利用者の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、内容をタブレットに入力している。年4回「ねねむ新聞」を発行し、本人の様子を毎月の手紙で伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案があれば都度話し合いを行い、休みなどで参加できなかった職員には後日報告しつつ、さらに意見などを取り入れている	申し送り時や業務の中で職員の意見や提案を聞き取り、運営やケアに反映させている。職員の提案で衣類乾燥機を交換したり、トイレの手すり位置を変更している。職員の個人面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望の休みが取りやすく働きやすい労働環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で研修には参加できないが入居者様一人一人にあったケアを行えるよう話し合い、実践につなげている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での事例検討会や認知症カフェの実施などがあったがコロナの影響で中止している		

グループホームねむむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い、不安や要望を確認し安心して入居できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、不安なことや気にかけてほしいことなどを確認し不安が解消できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の今の状態と入居前の状況把握し、適切な支援を行えるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態・能力把握し、できることは可能な限りご自身で行っていただけるよう支援している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リモート面会を実施したり、電話などで近況を伝えるなど共に支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で直接の面会が行えないため、リモート面会や電話などを通じて関係が途切れないようにしている	感染症の流行前は、近所に住んでいた友人が訪ねて来たり、職場関係の知人が来訪する利用者もいる。職員と一緒に使い慣れた品を買いに出かけることもある。家族と外食や買い物に出かけたり、自宅に帰る利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者様が苦手な方には職員が間に入り、少しずつ共同の場に馴染めるよう支援している。仲の良い入居者様同士は近くの席に座れるよう配慮している		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も希望があれば相談におうじるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や訴えから、本人の意向を把握できるよう努めている	会話や表情、身体の緊張度などから思いや意向を把握している。利用開始時にセンター方式シートを作成しているが追記や更新は行われておらず、利用者の趣味や嗜好などの現状も分かりにくい。	センター方式シート(B-3)を活用し、変化に応じて追記や更新を行うよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の家族や友人から話を聞き、どのような生活を送ってきたのか把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録を用いて情報を共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望を取り入れつつ、カンファレンスを行い適切なケアプランの作成に努めている	計画作成担当者を中心に、タブレットに入力している日々の様子を基に3か月ごとに評価を行い、介護計画の見直しを行っている。現在は主に短期目標に沿った評価なので、今後はサービス内容に沿った評価を行っていきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り・連絡ノートなどを活用し、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば都度対応し、入居者様が満足できるよう心掛けている。外出関係のものはコロナの危険があるため、応じることができないことを説明している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外出はできなかった。普段はお祭りなどに参加し、その際には駐車場から会場までの距離や車椅子が通れる環境であるかを事前に調べている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用している病院にかかったり、内科や泌尿器科は往診があるため、慣れた環境で緊張せずに診察を受けられている	利用者に応じて、かかりつけ医や協力医療機関の往診を受けている。家族と専門医を受診する時はメモ書きで伝えることもあるが、主に職員が同行している。受診記録はタブレットに入力している。	

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師が訪れるのでその時に、相談をしたり職員ではできない処置をしていただいている。診察内容は後日報告書にてユニットに配られる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリを作成し、既往歴や現病名・認知症の症状を詳しく記入している。また口頭での説明も行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様にとって穏やかな時が過ごせるよう家族やかかりつけ医と話し合い、可能な限り支援が行えるよう取り組んでいる	利用開始時に「重度化及び看取り介護に関する指針」に沿って説明し、医療行為が必要になった時は事業所での対応が難しいことを伝えている。看取り研修を実施し、昨年初めて看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、ほとんどの職員が救命講習を受講している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍のため避難訓練は職員のみの実施となる。レトルトの米飯や水などの多少の備えは用意している	毎年、消防署と地域住民の協力を得て昼夜の火災を想定した避難訓練を実施しているが、今年度は自主訓練を行っている。職員の救急救命講習を計画的に進めたいと考えている。地震時の危険箇所や対応の確認は不十分な面もみられる。	地震災害などを想定し、共用空間や居室の危険箇所の確認を行うよう期待したい。またケア別の対応について話し合い、議事録をマニュアルなどに綴るよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた声掛けや対応を行い、不快な思いをさせないよう言葉遣いにも配慮している	「さん」付けで呼んでいる。家族の同意を得た上で状況に合わせて、愛称で呼ぶこともある。各利用者に合わせた接遇を職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる方にはご自身で決めていただき、難しい方には職員が決めていただきやすいように選択肢を絞る等行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースや体調に配慮しつつ、どのような過ごし方を望んでいるのか把握できるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を着ていただいたり、理解が難しい方は職員が本人に似あう服をえらんできていただいている。定期的に訪問の美容室がある		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の支度や後片付け行い、会話をしながら行っている	栄養士指導の下、ユニットごとに職員が献立を作成している。誕生日のケーキを職員と一緒に手作りしたり、出前で、ちらし寿司や紅白饅頭など利用者の希望に応じた食事を提供することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に水分量や食事を記入しすべての職員が一人一人の状態を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促している。不十分な方には職員が介助行い清潔を保っている。歯科衛生士の指導も受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄をしていただくために、一人一人の排泄パターンを把握している。	タブレットを使用して排泄状況を記録し、利用者ごとに適切な声かけを行い可能な限りトイレでの排泄を支援している。自立している利用者もいる。適切な声かけにより、失敗が減り改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳やヨーグルトなどの乳製品をとっていただいている。それでも排便のない方は下剤で対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりしていただけるようせかすような声かけは行わず、湯船につかるときは入居者様から見えない位置で見守りを行うことで気を使わせないよう配慮している	一人週2回の入浴支援を行っている。日中に限らず、早朝・夜間など利用者の生活リズムに合わせた入浴が可能であり、同性介助にも対応している。一人ひとり湯温も好みの温度に調整して快適に安心して入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の好きな時間に休息をとっていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにまとめたり、薬箱にも用意してを機いつでもすぐに確認がとれるようにしている。変更があった際には記録や申し送りで共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	懐かしい歌謡曲の番組を見たり、新聞が好きな方に新聞を提供したり日々楽しんでいただけるよう支援している		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの危険があるため外出は行っていない。旅行系のテレビ番組を見るなどして楽しんでいただいている	普段の散歩は近隣の花壇や犬を見ながら楽しんでいる。外出が難しい場合は、玄関先に設置しているベンチで外気に触れる機会を設けている。有珠善光寺自然公園でのお花見や開拓記念館などにドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方にはしていただいている。難しい方には職員が支援を行い、お金を手渡して支払いだけしていただくなど行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けたり、はがきを送るための支援を行っている。リモート面会も開始している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事に合わせた飾りつけや、写真を飾ったりして廊下を歩く入居様が楽しんでいただけるよう工夫している	テーブルやソファに加え、畳や掘りごたつになっているスペースもあり利用者は好みの場所で過ごしている。観葉植物や花、雛人形や手作りの雪だるまの飾りなど、季節に合った装飾が施されている。広い開放部から陽が差し込み明るく、温かみのある空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやエントランスに椅子やテーブルを配置する等、好きな場所で穏やかに過ごせるよう配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具を使用していただき、穏やかに過ごせる空間になるように配慮している	ベッドとカーテンが備え付けられている。ダンスや化粧台など使い慣れた家具のほか、ラジカセ、テレビなど趣味に関する物を持ち込んでいる。家族写真や自分で描いた絵を飾っている利用者もあり、居心地よく過ごせる居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、トイレや浴室には手すりを備え付けている。居室やトイレなどには目印がついていて分かりやすいようになっている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173700311		
法人名	医療法人社団倭会		
事業所名	グループホームねねむ A-2ユニット		
所在地	北海道伊達市竹原町28番地3		
自己評価作成日	令和3年2月9日	評価結果市町村受理日	令和3年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人が生き生きと生活力が発揮できるように時間やスケジュールにこだわることなく利用者のペースに合わせて職員支援している。またコロナ禍においてストレスがたまらないようユニット内で季節の行事やレク活動を行っている。
家族面では現在面会ができない状況なので電話や手紙を積極的に利用しつながりが切れないうちに支援を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoCd=0173700311-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、休憩室、リビングに理念・方針を掲示し実践につなげられるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しイベントに参加しているが現在はコロナの影響で参加できていない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で利用者状況を報告し認知症の理解につなげようと努めているが現在コロナの影響で運営推進会議が行えていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、外部評価等報告しているが現在コロナの影響で運営推進会議が行えていません。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所の担当者に参加していただいているが現在コロナの影響で運営推進会議が行えていません。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止会議等を行い適切なケアが提供されているかヒヤリハット記録を共有し改善等話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや申し送り、事故防止対策会議等で虐待や身体拘束につながる事柄がないか話し合っている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や成年後継人制度について資料等で確認し理解を高める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書を提示して説明を行い十分に理解、納得していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ボックスや相談窓口を設置している。また面会の際の意見や要望は職員で話し合いをし情報を共有している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	都度話し合いの機会を作ったり定期的な会議でそれぞれの意見を述べている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境作りが考えられている。労働時間、有休休暇等の調整を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修参加はできていないが職員一人一人のケアの力量の把握し力量に応じたトレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響で中止している為現在は行えていません。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は必ず本人と面談を行い不安なく入居できるように本人の気持ちや要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず家族と面談を行い心配なことや要望をうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の本人の状態、生活について把握に努め柔軟なサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに気が付いたことがあれば話し合い良い関係を気付けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態を伝えたり、受診に家族が同行したりして支援を共にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話でご家族や知人と繋がれるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行に伴いコミュニケーションが難しいことがあるが職員が間に入り橋渡しになるよう支援している。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が入院した際には病院に様子を聞いたり家族と連絡を取り合いフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話を聞いたり日ごとの様子から思いや意向を共有できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の家族から生活歴を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録で状況を把握し情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に要望や意見を聞いたりご家族を含めたカンファレンスを行っているが現在はコロナ禍なので手紙で意見、要望を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や引継ぎの時に細かく申し送りをして情報共有を密に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時間にこだわらずその時の状況に応じて精神面、身体面の変化の合わせて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出する際には事前にバリアフリーのトイレや設備等確認している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続したりホームの協力医療機関の医師による週1回の訪問診療があり健康管理を行っている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の訪問看護の時に入居者の状態に変化がみられるときには必要に応じて報告、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院へ直接電話し情報交換を行うなどし病状の把握に努め退院時の受け入れ態勢がスムーズに作れるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として出来ること、できないことを含め家族と相談しながら進めている。また重度化及び看取り介護に関する指針と「急変時の希望」を文書で説明し同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講済みの職員がおり施設内にAEDを設置している。AEDの使用方の講習を救命講習時に受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定避難訓練を毎年行っている。ただしコロナ禍により地域住民、市役所職員の参加はできませんでした。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方、理解力が低下した方に合わせた言葉かけをしプライバシーに配慮している。また利用者の個人ファイルは事務所や各ユニットの戸棚に保管し利用者から見えないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のニーズを見極め利用者が自ら決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて起床や食事時間を決めたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型を整えたりその人らしいおしゃれができるように好みに合わせ支援している。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や洗い物、片付け等も職員と利用者が一緒に一人一人の状態に合わせて協力しながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下状態に合わせてゼリー状やムース食の形態に調理し主治医と相談しながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る部分は自分で行っていただきその後援助している。口腔ケアを拒否さえる方にはその方のやる気のあるタイミングで行っていただく。また月に1回歯科衛生士が口腔ケアの実施、アドバイスの提供を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し誘導を行い、必要に応じてパットやおむつを使用しています。またパットやおむつが合わない方もいるので布の失禁パンツを使用したり工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事で工夫しているが機能低下によって排便困難な場合は必要に応じて下剤で調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に考慮しながら希望の時間に入浴できるようにしている。入浴を嫌がる方には気分良いときに入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理のないように配慮しながら適度な活動をしていただくことで夜間の良眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時には複数名にて確認し、薬の内容の共有し副作用に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	創作活動や家事等行うことで気分転換や楽しみごとの支援を行っている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A-2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為現在では外出を控えているが温かい時期には施設前を散歩したりしていた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為買い物には出かけていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話できるように支援したりスタッフが本人に代わって手紙を書いたりご家族から来た手紙を読んであげたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調整には常に気配りしている。花や観葉植物を置き心地良く過ごしていただけるようにし、廊下や居室には写真や創作物を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身の気に入った場所で過ごせるようにリビングのソファの置く位置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使っていた家具を置いたり写真や花を飾るようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに表札を飾りわかりやすくしている。手すりが各所に設けられ、廊下は車椅子でも十分に移動できるスペースを確保している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173700311		
法人名	医療法人社団委会		
事業所名	グループホームねねむ Bユニット		
所在地	北海道伊達市竹原町28番地3		
自己評価作成日	令和3年2月11日	評価結果市町村受理日	令和3年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に利用者へのより良い支援を意識しながら仕事をしている。
 利用者に何か変化がある時は情報を共有し、ご家族にも出来るだけ早い段階で状況の連絡をするなどしている。
 毎月、利用者を担当している職員が普段の様子を家族宛の手紙で知らせている。
 資質向上のための資格取得に関して、金銭的な負担軽減や協力体制が出来ている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0173700311-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・基本方針を玄関やスタッフルーム・リビングなどの常に目に入る所に掲示して意識的に実践に取りくめるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板などで「ねねむ新聞」を回覧し、地域の方々から施設の様子などを知っていただくよう努めている。避難訓練等にも参加・協力を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様の状況を地域の方々にも理解して頂けるように、ホームページやねねむ新聞を見て頂き、理解につなげている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容は職員が共有し、意見を運営に取り入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には避難訓練や関係会議に参加して頂き、相談できるような関係作りに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議で身体拘束について話し合いを持ち、身体拘束及び言葉での拘束に関しても使用しない事をスタッフ一人ひとりが意識しながらケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットから事故防止委員を決めて会議に参加、施設職員全員で情報を共有し、虐待や事故防止に努めている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての理解は各職員によって差がある。該当する利用者がおらず支援するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、契約書を確認して頂きながら契約を交わしている。改定する内容がある時も文書で知らせ、理解・納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を用意したり、面会の時に意見や要望などを伺い反映する機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話し合いの機会を作り、定期的な会議でそれぞれの意見を述べる事が出来る。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に協力したり、働きながら学ぶことが出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、勉強会・事例検討会を行い、個々の資質の向上に努めている。コロナ禍の為、法人内外においての研修の機会は確保できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での事例検討会・研修会で学び合い、サービスが向上するように取り組んでいる。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人及び家族の要望や不安な事などをお聞きしている。家族と協力しながら受入れ体制を整え、コミュニケーションを図りながら信頼関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂いたり質問や要望、入居にあたっての不安な事などが無いか伺っている。入居直後も不安や不満に繋がらないよう配慮し安心感を持って頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談を行い、ユニットでも情報を共有して話し合いを行い、本人の状態にあったサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に日常で出来る事や馴染みのある活動を行い、利用者と職員が互いに感謝の気持ちを伝える事が出来ている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の普段の様子や病状の変化などを伝えている。また常にご家族の話や意見・要望など聞く事に努め、どのように支えていくかの話し合いが出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や店などに行ったり、家族や知人が面会に来た時にはゆっくり会話を楽しんで頂くなどしている。本人の関係を把握しておき、次回に繋がるように支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係を見守ったり、会話がスムーズにいくように職員が話題を提供するなど支援している。利用者同士の状況によってはトラブルも起こりえるので対応できるよう配慮している。		

グループホームねむむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が入院した時は、お見舞いに行ったり、ご家族に現在の状態を教えて頂いている。必要に応じて相談を受けるなどの支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを傾聴し、本人の希望する事が出来るよう努めている。また、普段の様子や会話の中から本人の思いをくみ取れる様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者本人やご家族から聞き取ったり、入居後も普段の会話の中から聞き取った事を職員同士で共有し把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に一日の様子・食事量・排泄等を入力している。職員も記録を見たり職員同士でその日の様子などを把握して、情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の有する力や状態に合わせた課題を設定し、生活を送る上で適切なケアを行えるようカンファレンス等で意見を出し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・連絡ノート等で職員間の情報を共有し、利用者の状態に合わせて話し合いを持ち、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・面会制限のある現状でオンライン面会を行い利用者・家族の不安の軽減に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の際は立地や車椅子でも移動が可能か事前に確認したり、地域で行っている行事などに出かけ楽しまれている。現在はコロナ禍の為制限されている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を受診したり、週一回の施設の訪問診療時に、普段の様子や体調の変化を伝えるなどの支援を行っている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護があり、看護師に利用者の普段の様子や病状の変化を伝えたり、必要に応じて相談したりアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の様子など病院と連絡を取り合い情報交換をしている。退院時も事前に病院での様子などを聞き、退院後の生活で気を付ける事を相談するなど関係作りは出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望・要望を伺いながら、可能な限り終末期の利用者様が安楽に暮らせる様支援している。医師等とも相談し、職員や家族を含めて現状を把握して情報や方針の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し急変時に備えている。救命方法については知識として覚えているが、前回の救命講習から期間が開いているので再度講習を行う必要があると思われる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に協力して頂き、定期的に避難訓練を行っている。緊急時に対応できるように備えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の分かりやすい言葉がけを心掛けている。ゆっくり話し掛けたり、傷つけるような言葉使いをしないよう気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が分かりやすいように複数の選択肢を示して選んでもらったり、自分の言葉で意見や考えを言えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた支援を行っている。美容室や買物などの希望があれば可能な限り優先して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望で馴染みの美容室へ行ったり、施設で散髪を行い髪型に気をつけている。洋服も本人の好みの物を着て頂いたり、爪や整容に気をつけ、清潔を保てる様に支援している。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理や盛付を行ったり食事をしている。利用者が自分のタイミングで食器などの片付けをされている。むせこみや嚥下が悪い時は状態に合った形態の食事を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分量を把握し、その人に合った形態で食事を提供している。食事量の低下がある場合は栄養補助食品を提供したり、嚥下状態に応じて刻みやトロミを付けるなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの介助や声かけ・見守りを行っている。定期的に歯科衛生士が口腔内チェックを行い、一人ひとりの口腔状態について指導やアドバイスを受けてケアに生かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、利用者に合わせた声かけや誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。また、状況に応じてトイレでの排泄が困難な利用者にはポータブルトイレを使用してもらっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量を把握し、自然な排便を促せるように牛乳・ヨーグルトなどを取り入れたり、本人に合った下剤を併用することで排便のコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に合わせて入浴を支援し、入浴中も様子を見守りしたり職員と談笑するなど入浴が楽しみとなる様に努めている。当日に入浴されない時は時間や曜日を変えて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中眠い時はソファーや居室で休んでもらったり、夜間眠れない場合は話を傾聴するなど安眠に繋がる様に支援している。また、日中に適度な運動をするなど夜間の良眠に繋がる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を確認できる所に保管して用法・用量について理解に努めている。内服時は職員2名で名前・日付けを確認、薬の種類や量が変わった時は情報を共有し、症状の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から好きな事や得意な事を把握して取り入れている。居室で自分の好きに過ごしたり、家事活動やパズルなど一人ひとりのやりたい事・出来る事をして頂いている。		

グループホームねねむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や体調を考慮して、ドライブ・散歩・外気浴を行ったり、職員や家族と一緒に買物や自宅・美容室などに出かける支援を行っている。季節によってはお花見や果物狩り・お祭りなどにも出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理をする事が難しくなっているが、買物の希望がある利用者と職員と一緒に買物に行き、支払い時に自分でお金を払ってもらい見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は本人に電話をして頂いたり、職員にかけてもらい話をしている。携帯電話を持たれている方は好きな時間に電話で話をされている。手紙なども希望に応じて対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングに利用者の写真や折り紙・タペストリーなどの飾り付けをして季節感を味わえるよう工夫している。室温・換気には常に気をつけエアコンや暖房を適温に調整し、居室やトイレなどには消臭剤を置いている。トイレ・洗面所は窓が無いため日中も電気をつけて使用しやすい様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子やエントランスのソファで庭や花を眺めながら、一人で過ごしたり気の合う利用者同士で談話しながら過ごすなど、その時々に関心するものに合わせた工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの家具を配置したり、家族の写真を置くなどして、動きやすかったり居心地の良い空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどに手すりを設置して安全に歩行・移動ができる仕様になっている。居室・トイレ・浴室などには表示プレートをつけてその場所が分かるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームねねむ

作成日：令和 3年 3月 9日

市町村受理日：令和 3年 3月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	参加できない家族等への意見聴取が不十分	参加できない家族へ事前にアンケートを送付し参加できない方の意見を反映させる。	運営推進会議前にアンケート用紙を配布し意見聴取を行う。	1カ月
2	35	地震時の危険箇所や対応が不十分	地震時の危険箇所や対応の見直し及び周知を行い非常事態でも対応できるように努める。	ユニット内で話し合い地震時の入居者様の対応、避難はどうするのか、どのように対応するのかを検討し議事録にまとめマニュアルを作成する。	3カ月
3	23	新しい情報が更新されていない	期日を決め新たな情報を記入していく。	センター方式シート(B-3)を活用し見やすい記録を作成する。	1カ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。